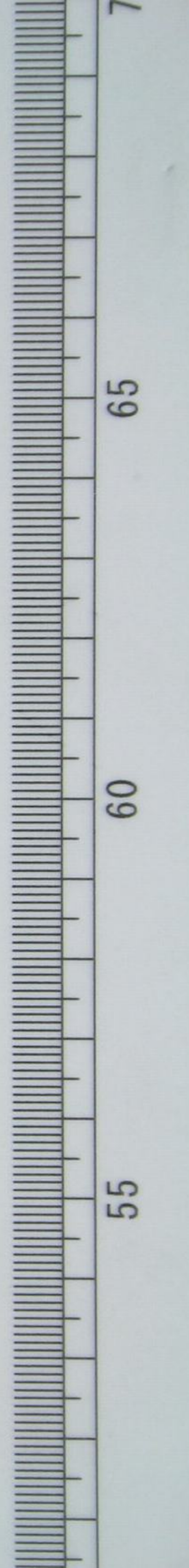


永嶋福太郎編輯  
 鹿兒嶋 争戰 日記  
 後編  
 壹号  
 辻文板

中買

鹿  
旧



A429

廣見島後戰日記初號

薩賊西郷黨當春以來暴發一肥後城より迫り  
 死力を尽し急速に抜んと欲して事ありげ今  
 節日向豊後路へ轉陣して再戦を謀るといへ  
 ども最早勝と得る事のいふに在るべき素より  
 天兵錦旗へ発砲の罪遁る道ふり遠うらげ  
 自滅の際に至り悔悟するとも何の益う在ん哉

村井静馬記

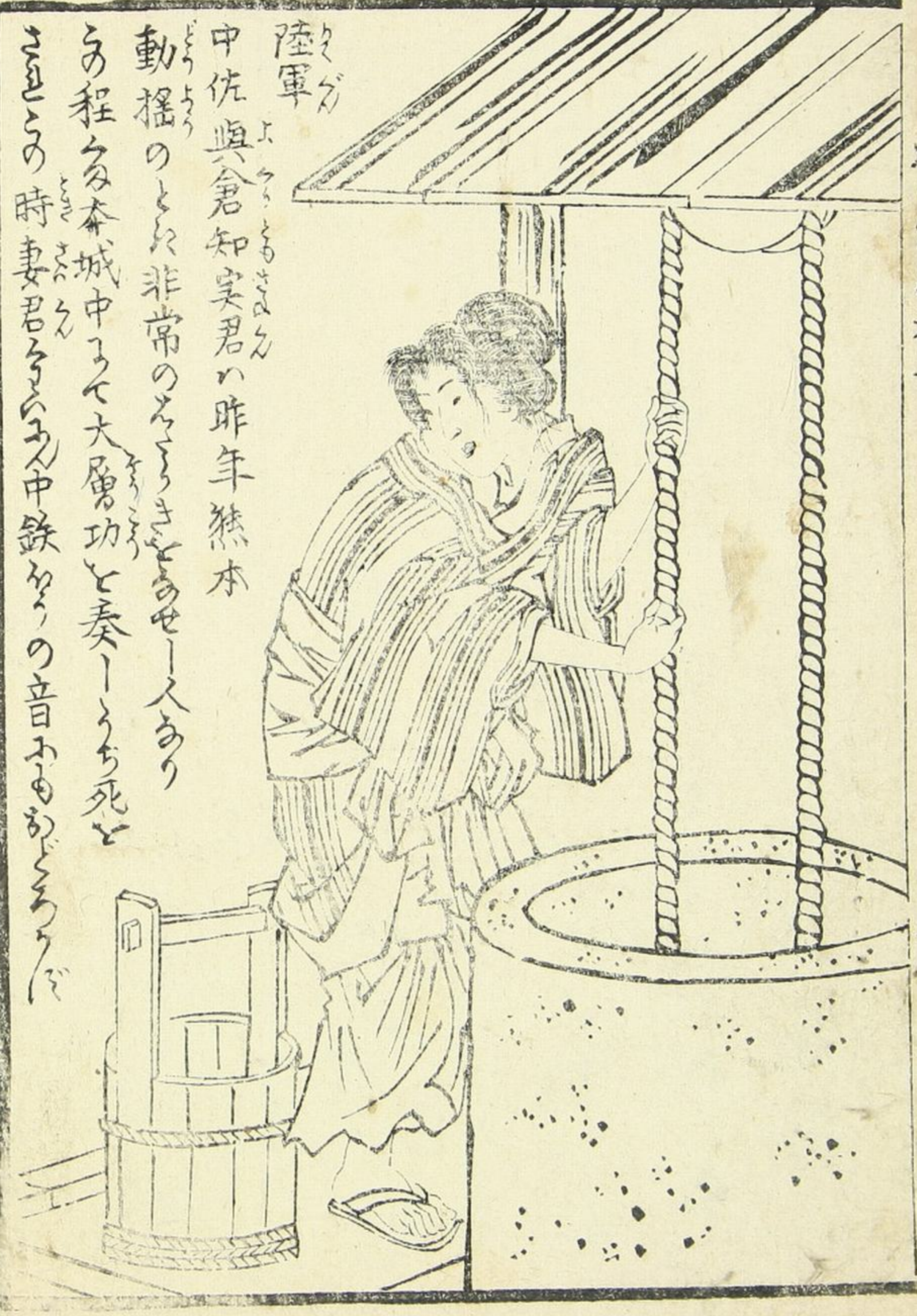
後戰日記

48-7887



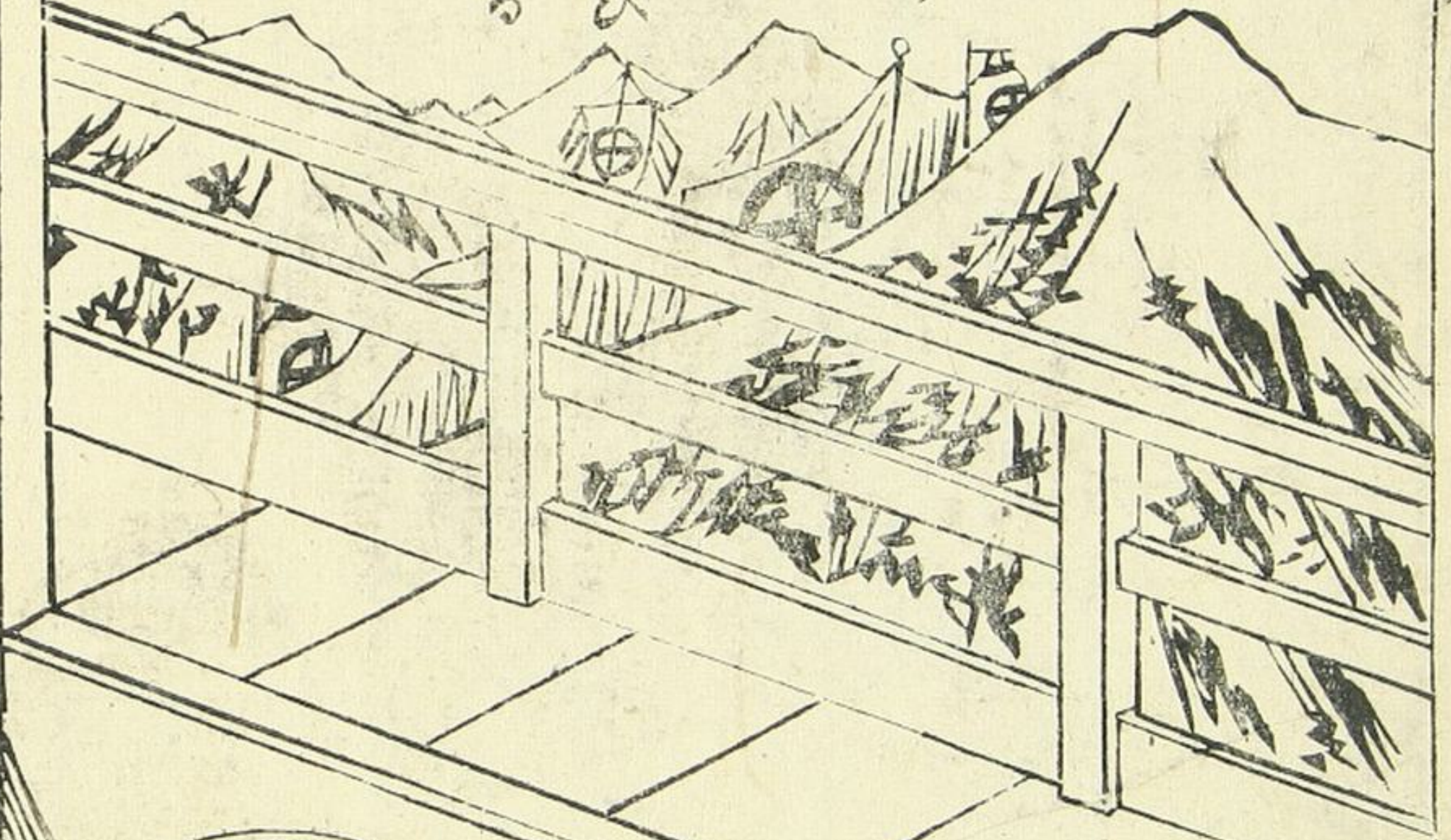
中佐の勝利をばて胎内たごいのころのうづと孫まごひる夫中佐の四月  
 十一日のさりのひのわのでとわひひよとくありさるのあげたえ  
 りるをうろくもあうらふさひげうらうとも筑城つちぎ中ちゆう又またさへあくゆとくま  
 入さあた史生しせいかきまて身みふそのこととありあけ  
 よろりし体たいえおのまのまま小こふとあぐひ  
 兵卒へいそのケツトけつととひのひ夫おとこふつとて  
 そとて一ひとの天暗あまぐれとひらぐ  
 かんトかんひりたり

中佐の勝利



陸軍りくぐん  
 中佐與倉知実君の昨年熊本  
 動揺どうごうのとら非常ひじょうのそととあせ入あり  
 ろ程ほどなる本城中ほんじゆう中ちゆうて大勇功たいゆうこうと奏そうしうち死と  
 さとりの時妻君ときつまきみさる中鉄ちゆうてつの音ねおもあどとらげ

ち小熊本の一どく  
 池辺吉平のいざなひ  
 衆一之が外  
 うさのいざなひ  
 かのいざなひ  
 うさのいざなひ  
 さの建白書を  
 うさのいざなひ  
 三百とゆらり  
 のやくの賊將  
 西郷よこじちる  
 しんわいと

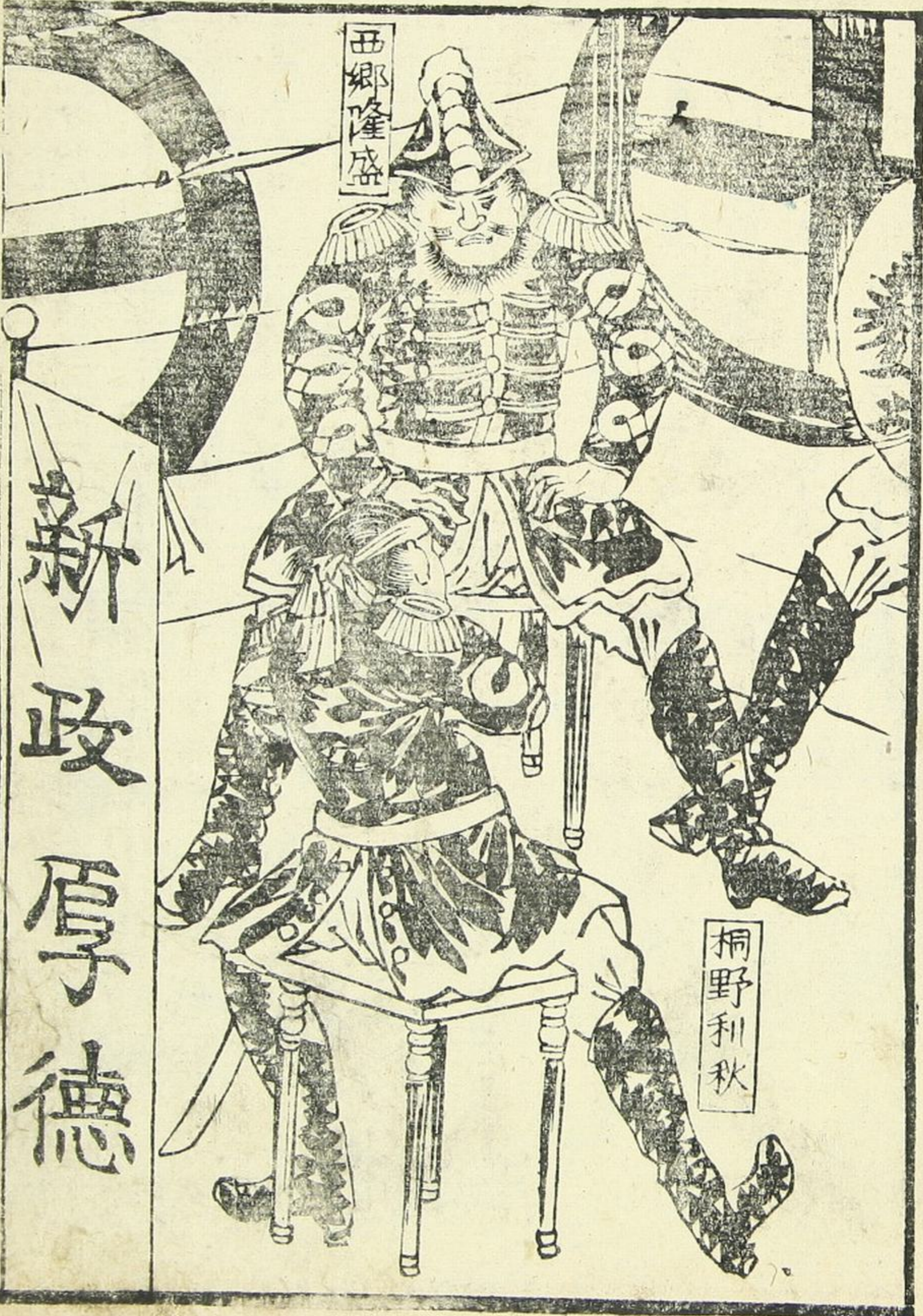


錦の  
 つの官  
 西郷  
 錦の  
 つの官  
 西郷

あが  
 うち  
 彩骨  
 碎身の  
 気ど  
 士族と  
 引出  
 命の  
 うさの  
 官軍を  
 入さ  
 だん茶食料  
 軍用金の周  
 実  
 池辺吉平郎



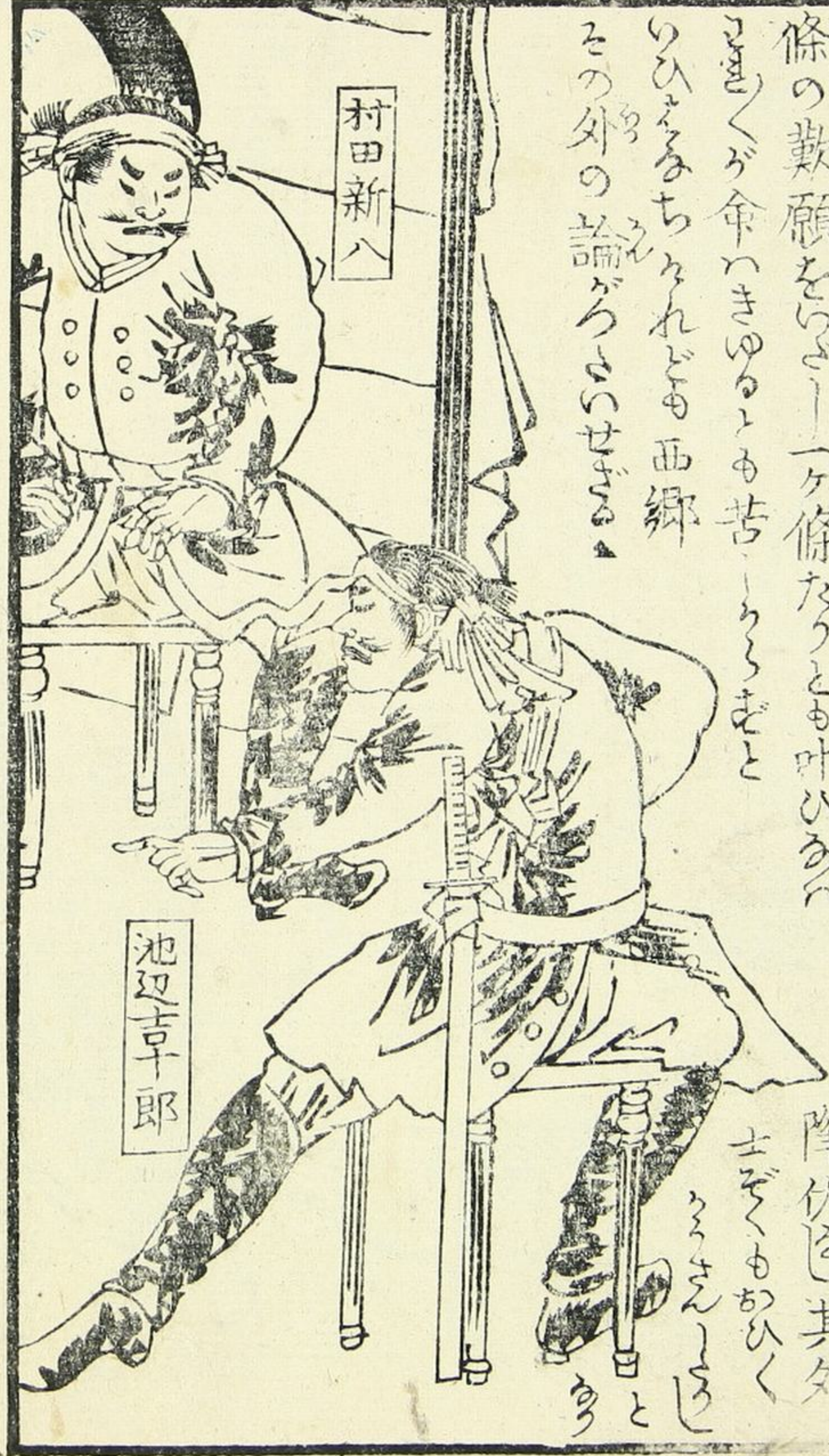
池辺吉平郎



西郷隆盛

桐野利秋

新政厚徳



村田新八

池辺吉郎

軍議をいりて池辺のちんい所芝との度の  
 軍勝利おぼつしき一時もさやく降伏し三ヶ  
 條の歎願をいりて一ヶ條たりとも叶ひあは  
 ざるが命いきゆるとも苦しうらむと  
 りひさみちをれども西郷  
 その外の論がうよいせざる

池辺の賊軍  
 脱し官軍に  
 降伏し其外  
 士どもおひく  
 と

一まう久光君の西京へかよび  
 出ふあるとの風聞をきき  
 公のちのさう州へさうなとの  
 廿二のり四月廿八日まの官軍  
 かくの一まう凡そ七千八百三十  
 人むとひひ官軍の兵卒と  
 ひのちの北とさくへん軍を  
 その外軍うんまをさううごちぬ  
 まうの賊のち右松祐永を  
 不きくしきと賊ハ熊本よう  
 十りやど山あくのづとをうく  
 官兵のまねをうひをかくと  
 出兵を一尚まへ人吉



街道を原と去る五里  
 半コマ山の下に哨兵と  
 ありとまう人吉を二十余  
 里のあひと沿道の村へ  
 多少の兵隊がたむけ  
 人吉の賊兵よりまへへ  
 同所を昼夜  
 雷管とまへ  
 しく居る  
 とし

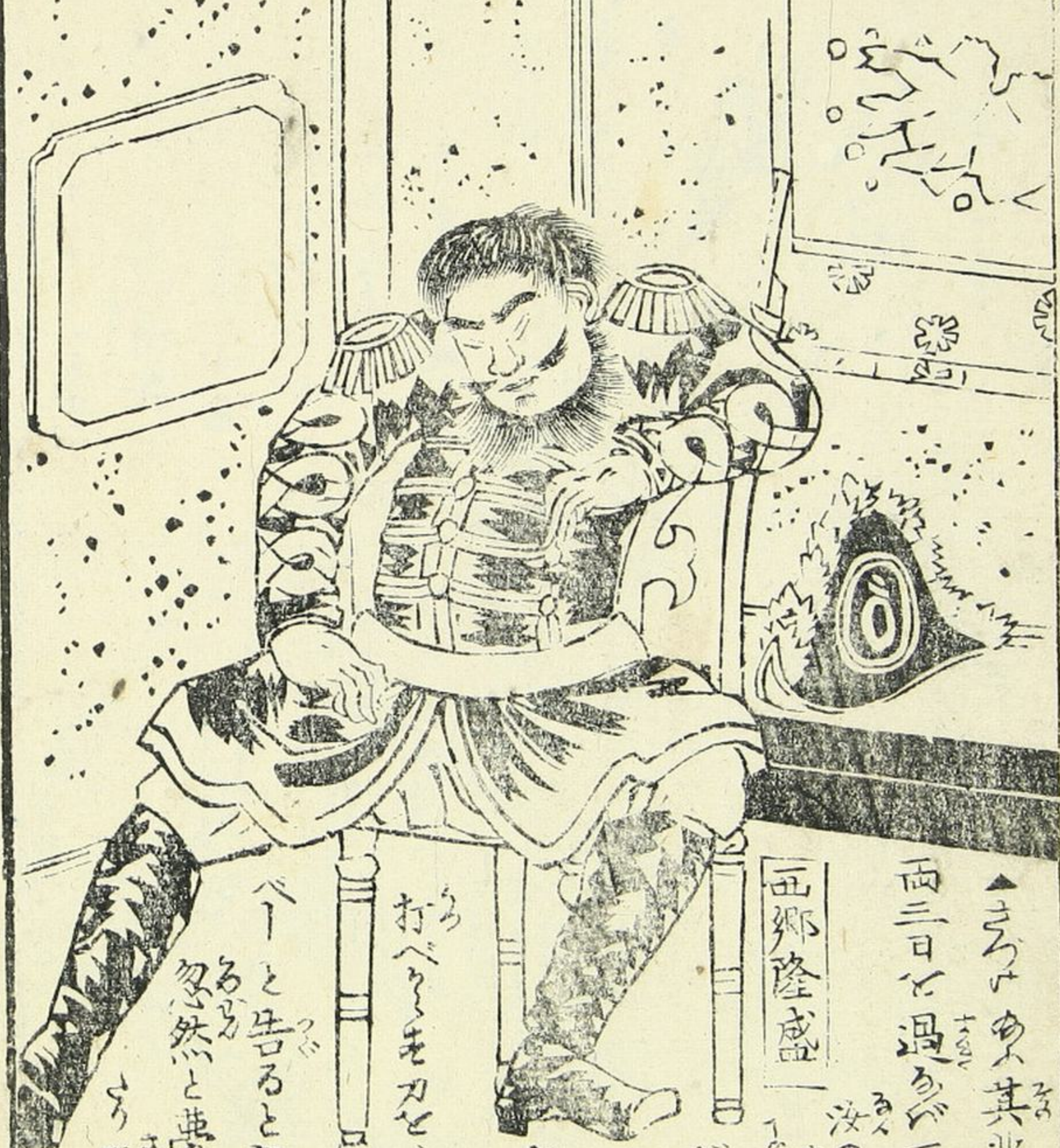


可き  
 吐く  
 西  
 或  
 夜  
 の  
 發  
 白  
 老人  
 政府  
 八百  
 伸  
 弾  
 業



神の告めんと待  
 んて西三日を  
 まる大蛇西  
 見られれば  
 扱を獲のつ  
 ありと剣とあり  
 兩断さきりなれば  
 大蛇へたちまちア  
 數十万のたん業硝業とあり  
 こればこそ神のたまはれとあり  
 勝利さかひあり愚民と  
 ちむわらる笑ふあり

笑  
 中  
 なる  
 動  
 人  
 固  
 か  
 言  
 の  
 種  
 薩  
 賊



西郷隆盛  
 現る  
 其  
 時  
 鉄  
 打  
 告  
 忽  
 西  
 必

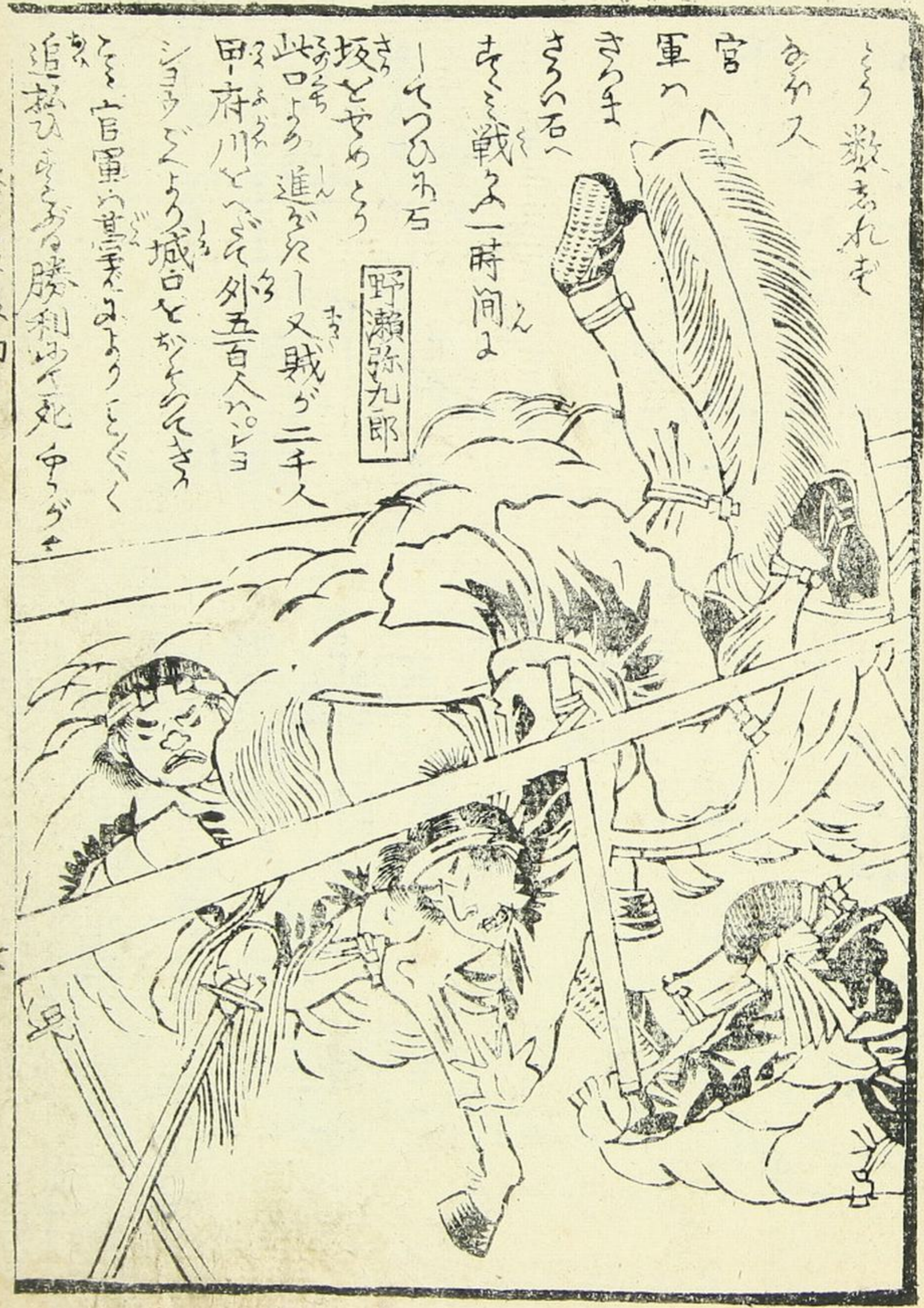
かたきおのり



五月八日官軍静  
向少佐の鹿見もろ  
ろ下ヤアノ芝開芝  
ろ賊いもろろ一死  
傷もろろ狼狽生  
捕も十人あろろ

三人賊の死すろろろろ隊長野せ  
弥九郎と打ろ賊の伊ろ行村と  
逃ろろ其後ろろろろろろろろろ  
五月五日未明ろ鹿見ろろろ下へ

山まろ 志り来ひ ちを そろ



とう 敵もろろ  
おろろ  
官  
軍の  
さろろ  
さろろ石へ  
まろ戦又一時間よ  
てつろ石  
坂とせろろ  
野瀬弥九郎  
此口より進がろ一又賊が二千入  
甲府川とへろ外五百人のろ  
シヨウとろ城口とろろろろ  
官軍の官軍とろろろろろろ  
追おひもろ勝利とろ死中ろろ



各所へは手ぶらにさへまきまき  
 下り有きなるく九日の



大ロハ  
 進ぐまほ  
 隊と  
 二中  
 の隊へ  
 又川路  
 松公

▲黒川大佐の  
 兵石坂と  
 たふし賊とあひ

関せしと  
 賊とちとち  
 生どろ十四人  
 おなく官軍と死  
 三人去る七日あ中村  
 白石との賊をひをひ  
 奮戦し二時間もたふ  
 賊もあむしと敗走まき  
 ありあていまる五日賊をひ来り官軍へ  
 其場より発砲とあひありどけ



るき七日の尚ほ賊

あそひ来りしとまふ

忘ど砲たらし賊となとま

廿六人その外コウツキ

川で死せるもの

数あるとまふ

あり又慶兎あるより

一里とて旧木むく

賊徒ら白燐硝とらめあきしと

官軍又出しかどらみせと此頃

島津久光君の乱とさけ猪宿

の別荘ふかきとあり又

櫻どまきけしとあり

余ハ後編よりくべ



010190510188

得三子

知采子